

発行所 大根占町公民館
電話 大根占 1 番
編集発行人
長崎 隼 人
印刷所
熊鷹社本店 6647
南日本新聞社 東部支社
電話 88・98 番！

昭和二十四年度

一般會計決算

本町財政の實態

狀況について

昭和二十四年度の（自動車税）
 般會計の決算は、既
 に議會の認定を得た
 のであります。以下
 決算上に表われた諸
 問題について簡単に
 述べたい存じます。
 度（の最終予算）五五〇
 の決算状況を見ますと、臨時財といふ存じます。

（地方配付税）（地
 方配付税法により地方の集積によ
 り政府より地方に配付される税）
 の三つからなつてゐるものであります。
 して、私達が町に直接納める所の到つてゐなかつたのであります。まして
 税金は縣稅附加税と独立税の二つ（製粉所など）一般會計に表われて
 であります。この根幹をなす町稅来るのは分岐を關持してゐたゞき
 公營企業及び財政收入によつて
 しては二十四年度におきまして
 國庫支出金は國家が支出する
 でありまして、これに（國庫會計）

公營企業たる町製粉所の収入を
 金（法律によつて國が負擔の義務
 あるもの（生活保護費等）國庫會計
 助金（例えば三團建築補助金）
 災害復旧補助とか、市町村の
 できない部面に國家が補助するも
 の（國庫交付金）あります。これ

フナニ、巨額に上り、輸入決算額、加税において一三六万圓、輸出税は二〇〇万二千〇四圓、輸出税算額は二九五万一千九二四圓でありまして、差引五五万〇一〇〇圓の翌年度繰越と言うことに一應はなつてゐるのであります。

第四款の運用料におきまして、実収入が予算額より二万一千圓ないであります、これは六三制の補助が最後まで努力したにかゝらず二十四年度においては、實収入が二五五万五千圓にして、大根占高等學校の生徒にえられず空しく二十五年度を待

(別表参照)

才人の根基をなすものは、申すまでもなく町税でありますが、町税は縣稅附加稅(私達)が縣稅を納めるときに附加稅として町に納めていた稅

獨立稅

(市町村獨立の稅例)は町民稅自の協力を要する次第であります。これはなほなほ存じます。

町價と致しまして大根占高稅を

の主なるものは縣稅附加稅において足らなものであります。これは事業稅であり、獨立稅において縣に納める生徒の授業料分担金では町民稅でありますが、感されに不足生支拂不能となつたのであります。大根占高稅は折角町に、自治体は依然として國に依存している姿を明白に表わして居ります。

たより外はなかつた次第であります。然しながら國庫支出金と國家入の十五%を占めて居り、これに配付稅を加えると実に五〇%に達し、

主張

道路政策に

就いて

本町施政一般について報告した
ものの、紙面の都合上茲には
養蚕発展の基礎をなす交通運輸
について述べてみたい。

其他の役所にも似て工事進捗に
注がなければならぬ自動車が行
来出来るで本町はじから三月、開
通に施行して貰ふ事に願ふの約
村は何れも計村各三三三乃至六
東が出来た事は喜びに乏えない
次日間の奉仕作業をやつて居り
既設縣道の修理について
村は概より優勝旗賞金を授け
るも費用は少く、年一回各客運
車、今迄に二回、

今後すべての物資が自由販賣に、隅開港の線に沿つて各方面の協力なるに従ひ其の價格は必ず騰貴と努力に依つて海岸道路が幅員六呎二丁居るが去る九月二十八日として貰ひ其方法も考慮する必要がある。計費に入られねばならない。

米半に改良されつゝあり其完成を三日間に亘り私は郡内縣道係あります。次に町道ですが牛ケ石手廻つて販賣品及び輸送費が期待し運動を續けて居る次第です。審査員に選ばれ全町村より採擇分擔、入寺公民館に於て採擇分擔、

款	項	入	調定額	收入濟額
1	町稅	14,630,615	15,125,207	13,214,833
	縣稅	4,299,814	4,718,816	3,358,816
	獨稅	2,711,801	2,787,390	2,237,150
	地方稅	7,619,000	7,619,000	7,619,000
2	公營企業及財產收入	226,148	239,927	239,927
	財產收入	62,471	10,819	10,819
	財產賣拂代金	163,677	229,108	229,108
3	分擔金及負擔金	2	—	—
4	使用料及手数料	444,215	323,091	323,091
	使料	216,975	88,414	88,414
	手料	227,240	234,677	234,677
5	國庫支出金	4,931,340	3,370,498	3,370,499
	國庫支出金	2,482,370	2,493,461	2,493,462
	補助金	2,430,500	810,300	810,300
	補助金	18,470	66,737	66,737
6	縣補助金	704,999	652,573	652,573
	縣補助金	235,080	242,582	242,582
	補助金	381,230	333,248	33,248
	補助金	88,689	76,743	76,743
7	寄附金	756,450	301,309	301,309
8	繰越金	862,625	865,173	865,173
9	雜收入	122,206	204,614	204,614
10	町債	105,201	187,249	187,249
	計	25,508,600	23,912,393	22,002,024

款	項	出	支出濟額
1	議會費	459,151	468,875
2	町役場費	4,028,006	3,914,708
3	警察消防費	3,269,092	3,125,699
	警察費	2,535,605	2,496,310
	警務費	190,550	162,826
4	土木費	4,443,630	4,060,965
	道路橋梁費	795,050	793,517
	砂防土木費	7,300	5,846
	災害土木費	22,283,780	190,606,019
5	教育費	1,357,500	1,357,583
	小學校費	6,480,786	4,563,557
	中學校費	1,847,015	1,552,103
	定時制高學校費	3,215,595	2,111,541
	社會教育費	1,270,826	752,565
6	社會及勞働施設費	147,350	147,348
	社會及勞働施設費	2,298,800	2,278,890
7	保健衛生費	280,400	266,396
8	產業經濟費	1,621,049	1,578,656
	農地委員會費	486,610	480,420
	農業調整委員會費	377,709	348,007
	農業畜產費	756,730	751,222
9	統計調查費	341,367	341,367
10	統計調查費	51,130	40,288
11	選舉費	76,170	44,267
12	公債費	239,619	129,324
13	諸支出金	1,868,800	129,324
14	予備費	50,000	0
	計	25,508,600	21,951,923

クローズアップされる

人口問題

今回の國勢調査から

数字は今同行われた國勢調査に申上げる事は一に大根占の事で依つて私も大根占町のありますが大きくは日本の人口間人口がどのように推移し題として考えて見て下さい。

しているか、過去数年の人口と比較　それでは本町の人口はどんなに減っているか、過去七年間の人口を比較して七五二平方町の伸びも縮みもえているかと申しますと別表の通り戸制時代よりすると現在では少しなり郷土の内の人口問題に関連

を待ち生活程度を通じてこの間三、七倍強の増となつており若し

といふことが、この頃には五六、
 〇〇〇人の都市となり、役場附近は
 電車が走り工場街、商店街がすら
 やと通り、港には何千トンと云う
 商船が出入する？と云う事になる
 でしょうが、それとも食糧の生産
 が追付かず、食わないで生存する
 人間に放逐しなければ食糧になや
 む？と云うような事はないでしよ
 うか。

そこで終戦前と現在とを比較し
 て、まず約三、〇〇〇人余の増加と
 なります。この内容を調べ、見ま
 すと在外引揚八八四人（含復員）
 内地にあつて帰郷一、〇〇〇人、
 自然増（出生）二、一〇〇人と云
 う事になつており、終戦後になえ

と現在の出生、死亡と戦前に比べ、
 てみますと、昭和八年乃至十二年
 迄は出生二人に対して死亡二人弱
 でしたが、現在では三人弱に対し
 て死亡二人となつています。勿論、
 戦後の人口増勢を決定する種別別
 うか出生の多いのは當然でしょう
 して平常となり出生も安定していし
 ます。この安定した昭和二十五年
 についで見ましても出生四七〇名
 。死亡二二二名で三対一の割合な
 つています。この事は衛生向上を
 物語る立派な数字でしょう。それ
 であるばかりでなく、吾々個々の
 人口調整については國家の関與
 して吾々生命が長く保てるように
 問題として真剣に考えるべきでは
 ないかと云ふ。只都會一戦と云ふ

た三、〇〇〇人のうち三分の二が男子、三分の一が女子と云う割合になります。

このことは自然の妙味です。戦争が始まつて男子は戦場に行き不幸にして帰らない人五五三人（陸軍四五四人、海軍九九人、未帰還及び軍人以外は含まない）もでて男女の平均が破れたのですが、現在ば男子の人口がふえ男女のつり合が充分回復しています。数年ならずつて昔の通り男女同数、結婚は心配なくむしろ男子がふえて女はますますになるでしょう。

以上述べました事で日本の人口めて行つたり、國家が問題とする動向も推察することか出来るので移民による道を求めるでなく、向にありまして吾が大根占町の生活の設計をなし、家族の人員を増加の一途をたゞつております。調節するなど、数学的基礎に立脚し、結局都會地に於て嬰兒制限が普して合理的、計画的に生活を設計及してゐる事が認められます。差しなければならぬと思ひます。

人口	増加率
3,888	100
4,324	111
6,052	155
6,691	172
7,616	195
8,310	213
8,277	212
9,900	254
10,326	265
10,261	264
10,935	281
11,456	294
11,863	305
11,646	299
13,695	352
14,379	379
14,721	388

1日

町議會招集さる

する時に間に解けるように御願ひ致し最大限の節約と簡素化を望んでいます。(町婦人會長)

償却資産の事について

